

学生の視点から見たオンライン授業
－学習効果と課題について－

杉野 竜美

Online classes from students' perspectives
－ learning effects and issues －

Tatsumi Sugino

神戸医療未来大学紀要 第23巻 第1号
(令和4年12月)

<原著>

学生の視点から見たオンライン授業
— 学習効果と課題について —

杉野 竜美

Online classes from students' perspectives
— learning effects and issues —

Tatsumi Sugino

COVID-19 that began in 2019 quickly became a global epidemic, and online classes were introduced at most universities. And now face-to-face classes have begun, but online classes will continue to develop.

The purpose of this paper is to examine the learning effects of online classes based on the students' perspectives. To this end, two research questions are presented. (1) What do they think about online classes? (2) What are the reasons for this? By clarifying these questions, the significance of online classes will be expressed from the students' perspectives and learning effects and issues of online classes will be discussed.

A Google Form questionnaire was conducted from late January to 31 March 2022. The survey target consisted of 1087 students at Kobe University of Welfare. The following questions were asked with reference to previous studies. (i) Attributes of those surveyed, (ii) impressions of online classes, (iii) satisfaction with online classes, (iv) understanding of online classes, (v) devices used when taking classes, (vi) advantages of online classes, (vii) disadvantages of online classes, (viii) about the teaching style in the With Corona era and (ix) opinions about online classes.

The results of a questionnaire survey show that they tended to have a positive view of online classes in terms of their impression, satisfaction and understanding. And the reasons for this are 'learning effectiveness' and 'convenience'. However, if online classes are to be used alongside face-to-face classes in the future, also now, the focus should be on 'learning effectiveness'.

Key words : online classes, learning effects, university students,
オンライン授業、学習効果、大学生

1. 本論文の目的

コロナによって余儀なくされたオンライン授業であるが、その一方で、ICT教育を促進したという側面もある。現在（2022年7月）

において多くの大学が対面授業を再開しており、オンライン授業の必要性が低くなった感もある。しかし、大学設置基準の改正においてオンライン授業単位数上限を緩和する特例制度が創設されることに鑑みると¹、今後オ

ンライン授業がゼロになることはなく、むしろ、オンライン授業をいかに活用するのが課題となるだろう。オンライン授業を有効に活用するにあたって、まずはオンライン授業の学習効果について考えたい。それも、授業の対象者である学生の視点から、オンライン授業の学習効果について検討するのが本論文の目的である。

そして本論文では、オンライン授業を経験した本学の学生が、①オンライン授業に対してどのように思っているのだろうか？②それはどのような理由からだろうか？というリサーチクエスチョンを立て、これらを明らかにすることによって、学生の視点からオンライン授業の意義を表出し、その学習効果と課題について検討する。

オンライン授業は、通常、リアルタイムの同時双方向型、再視聴可能なオンデマンド型、対面授業と同時に行われるハイブリッド型に大別することができる。本論文では、同時双方向型とオンデマンド型の2タイプを「オンライン授業」とする。その理由は、本研究が「学生の視点」から検討することを目的としている点にある。学生たちは、インターネットを利用した授業全般を「オンライン授業」と呼んでおり、同時双方向型、オンデマンド型、ハイブリッド型の名称に馴染みがない学生も多い。粗雑感は否めないが、アンケート調査

の実施において、分かりやすさや回答のしやすさを優先した。

2. 研究の背景と先行研究

2019年にはじまった新型コロナウイルスは瞬く間に世界的な流行となり、ほとんどの大学でオンライン授業が導入された。本学も2020年度新学期は5月よりオンラインで授業することになった。

この時期の日本の大学の授業形態について確認してみよう。表1は大学の授業形態が、2020年度の6月と7月でどのように変化したかを示している。この1ヶ月の間にも対面授業が再開しつつあり、オンライン授業のみの大学は減少していることが分かる。ただし、7月の時点でもすべての授業を対面で実施した大学は少なく（173大学）、対面授業を再開してもオンライン授業は併存し、80%以上の大学（896大学）がオンライン授業を利用して

このような状況を受けて、2020年から大学のオンライン授業について調査した研究が発表され始めた。本調査を実施した2021年12月、CiNii Articlesで「オンライン授業」「大学生」「意識」をフリーワード検索したところ36件の論文が発表されていた²。この中には、カリキュラムデザインの視点からオンライン授

表1. 2020年度6月→7月 大学の授業形態

	対面授業 6月→7月	対面&オンライン授業 6月→7月	オンライン授業 6月→7月
国立大学	0 → 1	23 → 55	63 → 30
公立大学	5 → 8	29 → 72	66 → 22
私立大学	96 → 145	256 → 492	471 → 187
高等専門学校	2 → 19	14 → 23	41 → 15
(全体)	103 → 173	322 → 642	641 → 254

※ 6月1日時点で授業を実施していると回答した学校：1066校

※ 7月1日時点で授業を実施していると回答した学校：1069校

出典：文部科学省（2020a,b.）を参考に筆者作成

業の議論に関する研究（泰松・石黒・大村2021）、オンライン授業における学生個人の学習態度の低下について確認した研究（田中美和2021）、オンライン授業のメリット／デメリットに関するアンケートから学生の意見を調査したもの（松島・尾崎2021a,b、山崎2020）などがある。特に、松島・尾崎（2021a、2021b、2022）と山崎（2020）は、本論文と同様に学生の視点によるオンライン授業のメリット／デメリットから学習効果について検討しており、本研究の参考にした。

松島・尾崎（2021a、2021b、2022）は、京都市内の2大学の学生を対象にしたオンライン授業に関する学生の印象を調査するアンケートを実施している。その回答（自由記述を含む）から、学生たちはオンライン授業のポジティブな側面として「利便性・合理性・効率性」「学習効果」などに期待していること、逆にネガティブな側面として「学習の進めにくさ」「学習の負担感」「孤独感・双方向でないことの難しさ」「心身の負担感・怠惰」「オンライン授業への不信感」を感じていることを明らかにした。

山崎（2020）は、香川大学の2授業の受講生を対象にアンケートを実施し、オンライン授業に対する満足度とメリット／デメリットについて調査した。その結果、利便性を求める学生はオンライン授業の満足度が低く、学習効果を求める学生はオンライン授業の満足度が高いことが分かった、

オンライン授業に関する学生アンケート調査を実施した先行研究から見えてくるものとして、主に次の4点を挙げることができる。

- ・オンライン授業にメリットの側面とデメリットの側面を感じている
- ・オンライン授業に対する学生の評価には、ポジティブとネガティブなものがある
- ・ポジティブな評価、ネガティブな評価の

中にも利便性に関するもの、学習効果に関するものなどに分けることができる

→それが、満足度に関連している

- ・対面授業とオンライン授業の併用によって、課題は変化する可能性がある

このような他大学の調査結果をふまえて、それでは「神戸医療福祉大学³の学生たちはオンライン授業についてどのように考えているのだろうか？」そして「それは、どのような理由からだろうか？」について答えるために、アンケート調査を実施し、オンライン授業の学習効果と課題について検討したい。本学は、実技や実習が多いというカリキュラム上の特徴と、外国人留学生が多数在籍しているという特徴をもっている。この特徴が、オンライン授業の学習効果と課題について何らかの影響があるのかについて検討する。

3. 調査概要

(1) 調査方法、時期、および対象者

2022年1月25日より3月31日までGoogleフォームによるアンケートを実施した。対象者は、本学の学生1087名（健康コミュニケーションスポーツ学科360名、社会福祉学科⁴256名、経営福祉ビジネス学科471名）であり、教育支援システム Active Academy Advancet を通してアンケート URL を提示するとともに、教員からの呼びかけによって、学生に回答を依頼した。

Google フォーム冒頭では、アンケートの目的を伝えるほか、結果を大学紀要で発表する旨、回答内容や個人が特定されないように配慮する旨、回答内容によって回答者に不利にならない旨、回答は任意である旨を伝え、倫理的配慮を行った。

(2) 調査内容

Google フォームによるアンケートの内容は次のとおりである⁵。⑥と⑦の選択項目に関しては、先行研究（松島・尾崎2021a,b、山崎2020）で明らかになった学生の考えるオンライン授業のメリット／デメリットを参考とした。

- ① 調査対象者の属性：所属学科、学年
- ② オンライン授業に対する印象（4段階）
- ③ オンライン授業に対する満足度（5段階）
- ④ オンライン授業の理解度（5段階）
- ⑤ 受講時のデバイス
- ⑥ オンライン授業の良い点（「その他」を含む17項目から最大3つまでを選択）
- ⑦ オンライン授業の悪い点（「その他」を含む14項目から最大3つまでを選択）
- ⑧ アフターコロナ／ウィズコロナ時代の授業スタイルについて（その他を含む5項目から1つを選択）
- ⑨ オンライン授業に関する意見（自由記述）

上記の質問⑥⑦の回答を分類するにあたって、「学習効果:学習レディネス」「学習効果:学習プロセス・効果」「利便性」「人間関係」「その他」の5項目に整理した。学生がオンライン授業を評価する際に、学びを深める（または学びを阻害する）視点をもつことがある。

これを本論文では「学習効果」とした。その中でも、学習に取り組む準備段階に当たるものを「学習レディネス」とし、学習のプロセスや結果に関わるものを「学習プロセス・効果」とした。また、オンライン授業を実施する中で、通学時間がなくなったことを喜ぶ声が聞かれた。このような利便的であるものや効率性を求めたものをまとめて「利便性」と括った。そして、対人関係に関するものを「人間関係」とし、これらに当てはまらないものを「その他」とした。これらの分類は、オンライン授業の良い点（メリット）・悪い点（デメリット）の両方で利用した。

4. 結果：集計～分析～考察

(1) 各項目の集計

① 属性

回答者の総数は443名（40.8%）であった。学科別・学年別の回答者と回答率は、表2の通りである。経営福祉ビジネス学科学生の回答者が多いのは、当学科の授業内でオンライン授業に関する学生アンケートについて取り上げたためと、教員による声かけの徹底があったためと思われる。アンケートの実施が1月以降であったため、4年生以上の学生は卒業後の準備などがあり回答が少なかったと考える。

表2. アンケート回答者の属性

	1年生	2年生	3年生	4年生以上	計
健康スポーツ コミュニケーション学科	19	25	13	9	66 (18.3%)
社会福祉学科	23	27	18	17	85 (33.2%)
経営福祉 ビジネス学科	75	82	90	45	292 (62.0%)
合計	117	134	121	71	443 (40.8%)

著者作成

② オンライン授業の印象・満足度・理解度

オンライン授業に対する印象、満足度、理解度のすべてにおいて、健康スポーツコミュニケーション学科の学生の評価が高い結果が出ており、社会福祉学科において反対の結果が出ている。ただし、学科別の回答率に鑑みると、これを学科全体の傾向と断定することはできない。あくまで、回答の集計結果として提示するにとどまりたい。

全体として、「とても良い」「まあまあ良い」(合計370名83.5%)が、「とても悪い」「あまり良くない/やや悪い」(73名16.5%)を上回っており、学生のオンライン授業に対する印象は肯定的といえる(図1参照)。この傾向は、大学で対面授業を経験している3年生の回答も同様であったので、オンライン授業

への親和性とは関係のないといえる⁶。

オンライン授業の満足度と理解度においても、否定的な意見は少数である(図2、図3参照)。日々の教育活動の中で、対面授業を望む声を聞いていた筆者としては、予想に反した意外な結果であった。

③ 受講時のデバイス

オンライン授業の受講時に利用しているデバイスについては、健康スポーツコミュニケーション学科と社会福祉学科の半数以上は学生自身のPCを利用しているのに対して、経営福祉ビジネス学科の学生ではスマートフォンの利用率が高いことが分かる。経営福祉ビジネス学科でPCを利用している学生は、スマートフォンを利用している学生の約

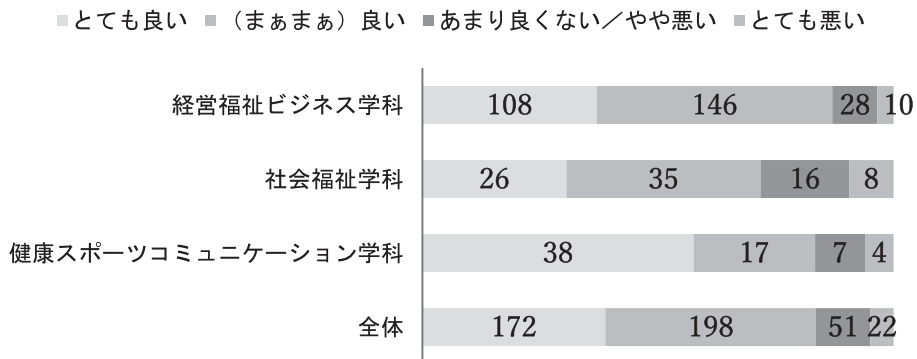


図1. オンライン授業に対する印象

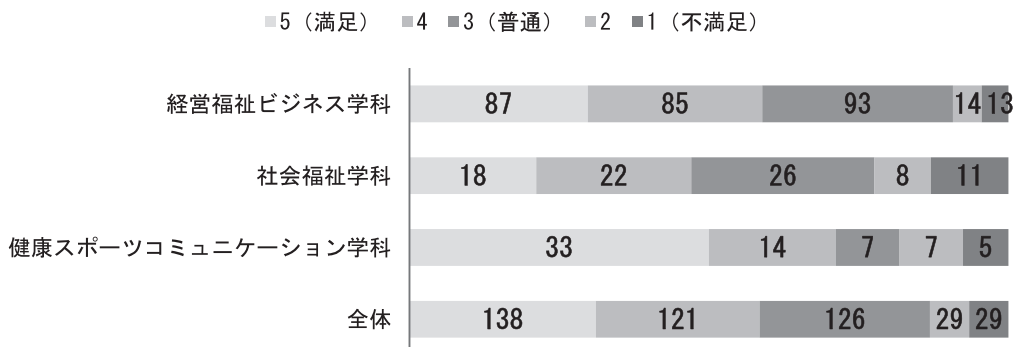


図2. オンライン授業の満足度

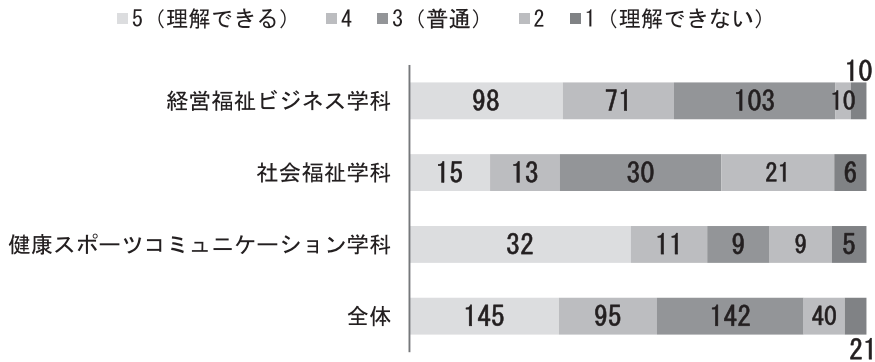


図3. オンライン授業での理解度

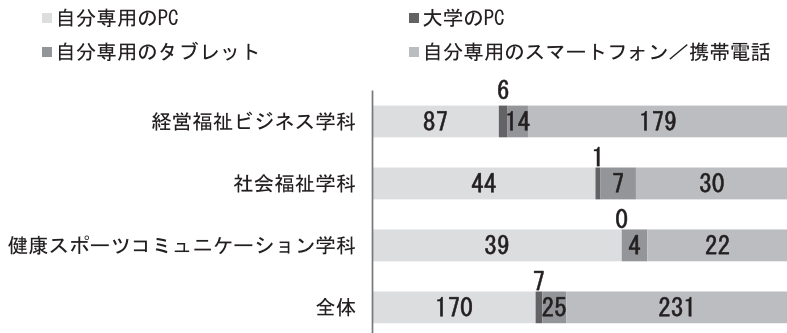


図4. 受講時に利用しているデバイス

半分である。これは、当学科が外国人留学生で占められており、その多くがPCを有していないためである。

④ オンライン授業の良い点・悪い点

オンライン授業の良い点として挙げているのは「コロナ対策」が最も多かった。これは、学生がオンライン授業を安全な学習環境の担保するツールとして捉えていると考える。しかし、大学のオンライン授業の導入がコロナ感染症防止対策として始まったことを考えると、コロナ感染症防止対策としてのみ考えている可能性もある。

次に「自分のペースで勉強ができる」「復習が何度でもできる」など学習効果に関連した項目が続いている（図5参照）。

オンライン授業の悪い点としては、「先生

や友人に会えない」事が挙げられており、学生が孤独を感じている様子が伺える（図6参照）。他者との関係の中で学びを得たいと考える学生にとっては、単に「さみしい」というだけでなく、学びの環境や機会に関わる状況といえる。

⑤ アフターコロナ/ウィズコロナ時代に望む授業スタイル

コロナと共存する状況になったときに希望する授業スタイルは、オンライン授業を選択する学生が多かった（図7）。前述のオンライン授業への印象・満足度・理解度で確認した状況と同様の結果である。筆者が予想していた以上に、学生はオンライン授業を好んでいる。次の、どのような点でオンライン授業を肯定的に捉えているのかについて分析する。

学生の視点から見たオンライン授業

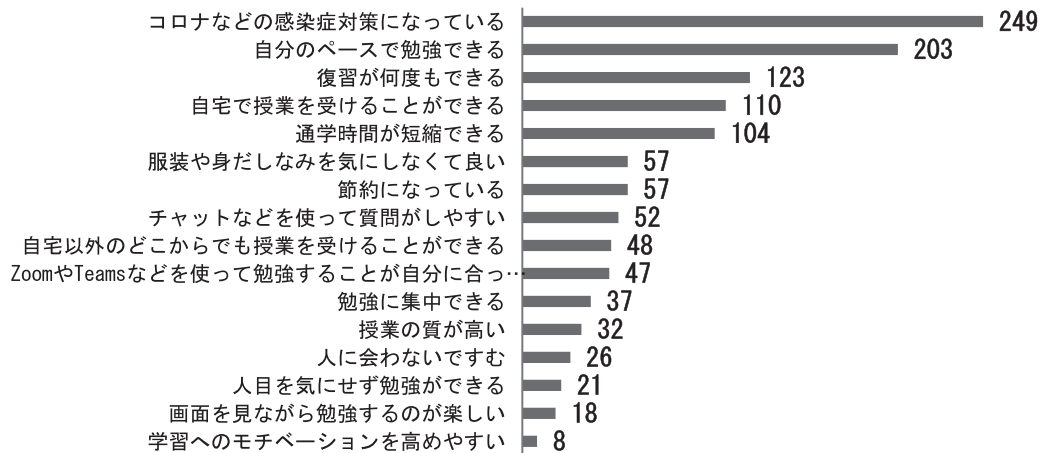


図5. オンライン授業の良い点 (メリット)

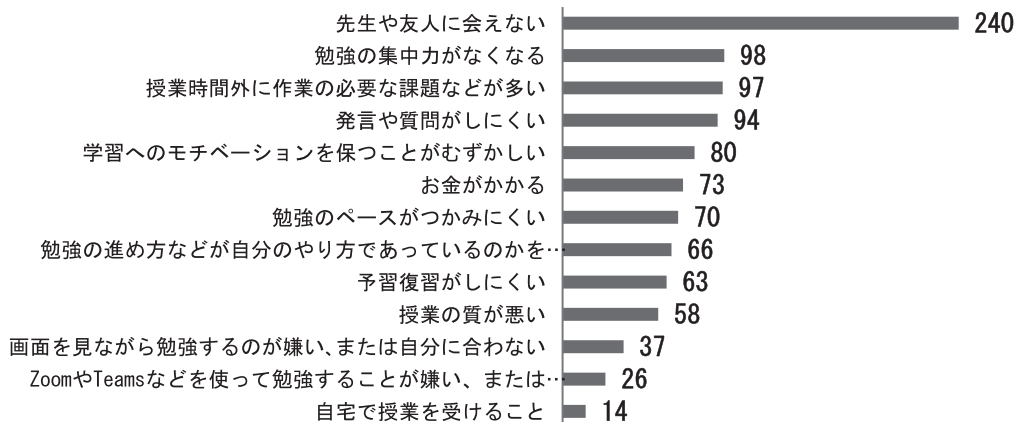


図6. オンライン授業の悪い点 (デメリット)

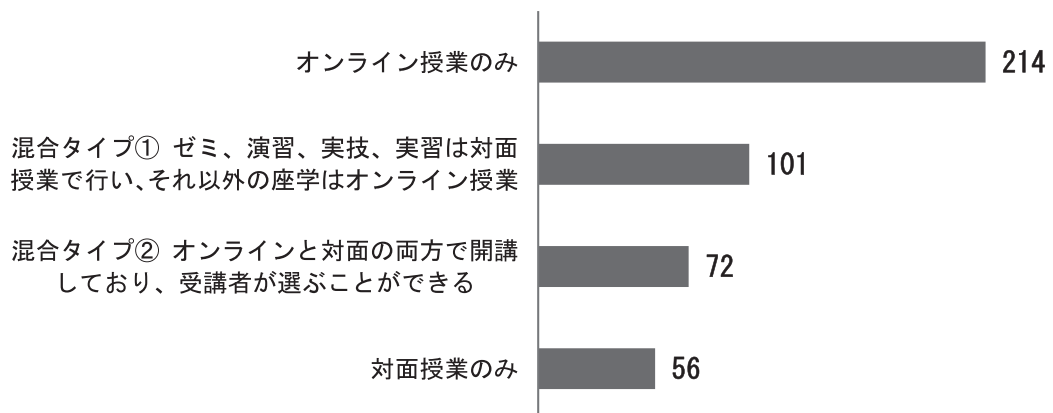


図7. アフターコロナ／ウィズコロナ時代に望む授業スタイル

(2) 分析

① オンライン授業の印象・満足度・理解度、受講時の利用デバイス

オンライン授業の印象・満足度・理解度、受講時の利用デバイスの関連性について概観する。オンライン授業に対して肯定的な印象をもっている学生は満足度も高い。またオンライン授業の満足度が高い学生は授業の理解度も高いことが分かる（表3）。

受講時に利用しているデバイスは、オンライン授業の印象・満足度・理解度と関連しないことが分かった。例えばスマートフォンだと画面が小さく資料を見るのが困難だが、学生はそれを大きな問題と捉えていない。

② オンライン授業の良い点（メリット）・悪い点（デメリット）の分類

オンライン授業の良い点（メリット）（図5）と悪い点（デメリット）（図6）にあげた項目は、「学習効果」「利便性」「人間関係」「その他」に分類することができる。この分類では、先行研究（松島・尾崎2021a,b、山崎2020）で浮かび上がった学生たちの考えるメリット／デメリットを参考にした⁷。本調査での分類の詳細は、図8（良い点・メリット）と図9（悪い点・デメリット）の通りである。

「(1) 各項目の集計 ④オンライン授業の良い点・悪い点」の図5（「オンライン授業の良い点（メリット）」）では、多くの学生が「（オンライン授業は）コロナなどの感染対策に

なっている（249件）」を選択していたが、次に多く選択された項目は「自分のペースで勉強できる（203件）」「復習が何度でもできる（123件）」であり、本分類では「学習効果」に関するものであった。続いて選択されたのは「自宅で授業を受けることができる（110件）」「通学時間を短縮できる（104件）」であり、「利便性」に分類される項目であった。

この結果をふまえて、次にオンライン授業の満足度・理解度と学習効果や利便性の関係について検討する。

③ オンライン授業の満足度・理解度と学習効果／利便性

まずはじめに、オンライン授業の満足度・理解度と学習効果の関係をとり上げる。2番目に多かった項目「自分のペースで勉強できる」ことがオンライン授業の良い点（メリット）と考えている学生は、オンライン授業に満足している傾向にある。自分のペースで勉強ができるという状況は満足感を得ることはできるが、理解へと繋がっていない。

3番目に多かった「復習が何度でもできる」ことをオンライン授業の良い点（メリット）だと考えた学生は、授業の理解度も深まったと感じている。たとえば、OECD・PISA 調査においても、学習時間が成績に反映することを明らかにしているように、何度も復習するという行為が理解へと結びついている。

しかし、「復習が何度でもできる」ことよりも、

表3. オンライン授業の印象・満足度・理解度、利用デバイスの関連性

(Pearson 相関係数)	オンライン授業の満足度	オンライン授業の理解度	受講時の利用デバイス
オンライン授業の印象	.821**	.730**	.153**
オンライン授業の満足度	-	.761**	.153**
オンライン授業の理解度	-	-	.108*

** 相関係数は 1% 水準で有意（両側）

* 相関係数は 5% 水準で有意（両側）

「自分のペースで勉強ができる」ことの方が満足度や理解度に強く関連している。次に利便性との関連を取り上げる。「自宅

で授業を受けること」や「通学時間を短縮できること」をオンライン授業の良い点(メリット)だと考えている学生は、オンライン授業

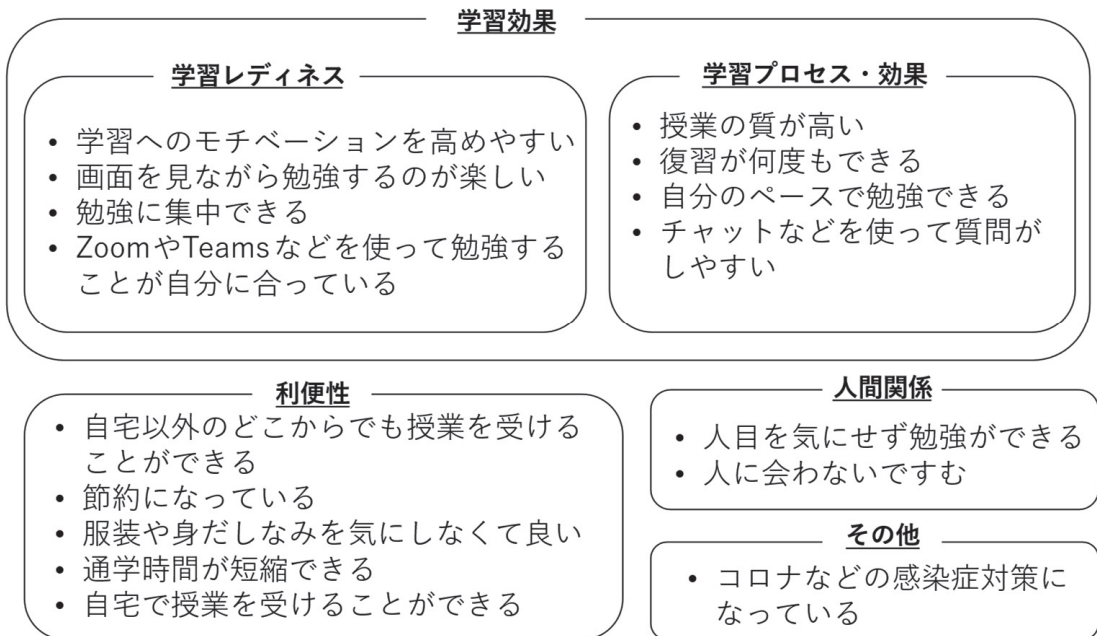


図8. オンライン授業の良い点(メリット)の分類

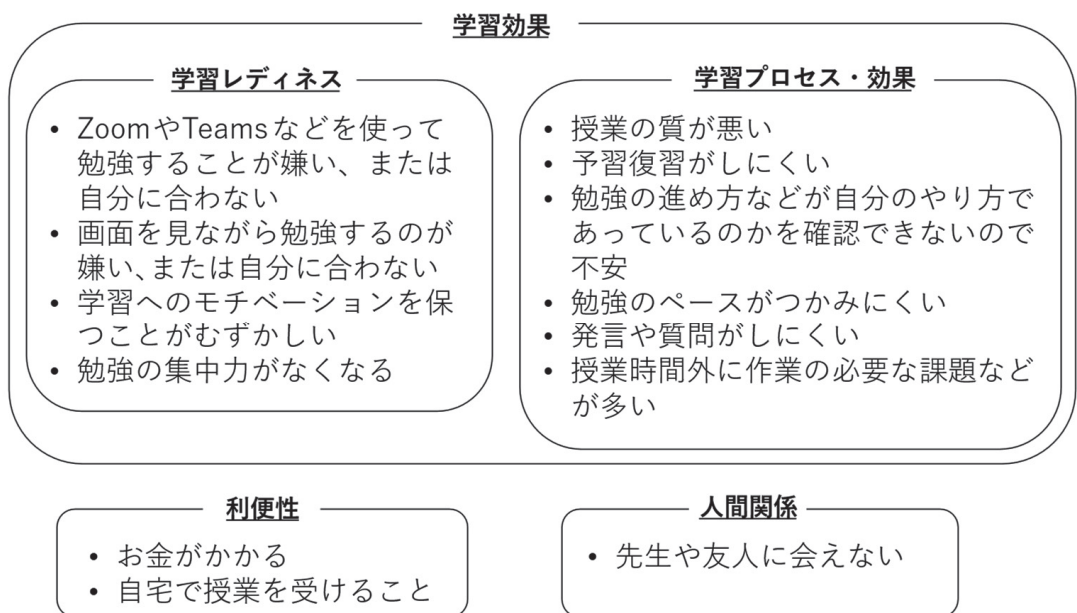


図9. オンライン授業の悪い点(デメリット)の分類

表4. オンライン授業の満足度・理解度×学習効果

(Pearson 相関係数)	自分のペースで勉強ができる	復習が何度もできる
オンライン授業の満足度	.276**	.081
オンライン授業の理解度	.216**	.179**

**. 相関係数は 1% 水準で有意 (両側)

表5. オンライン授業の満足度・理解度×利便性

(Pearson 相関係数)	自宅で授業を受けることができる	通学時間を短縮できる
オンライン授業の満足度	-.090	-.141**
オンライン授業の理解度	-.097*	-.192**

**. 相関係数は 1% 水準で有意 (両側)

*. 相関係数は 5% 水準で有意 (両側)

の満足度も理解度も低い。それは「通学時間を短縮できること」をメリットと考えている学生の方が強い傾向にある。

(3) 考察

山崎 (2020) の研究では、「利便性を求める学生は、オンライン授業の満足度が低く」「学習効果を求める学生は、オンライン授業の満足度が高い」傾向にあるとの香川大学の調査結果を示していたが、本学を例にしても同様の結果が得られた。さらに、満足度だけでなく、理解度においても同様の結果が得られた。本学の特徴として、実技や実習の科目が多い点と外国人留学生が多数在籍している点を前述したが、この影響による他大学との差違は確認できなかった。特に、本学の外国人留学生が多く在籍する学科では、受講時に利用しているデバイスにスマートフォンが多いという特徴が見られた。しかし、デバイスの違いがオンライン授業の印象・満足度・理解度に影響していなかったことから、本学と香川大学との違いを確認できなかった。

今回、オンライン授業の良い点 (メリット) を取り上げて、満足度・理解度と学習効果/利便性の関係を検討した。これは、オンライン授業の良い点 (メリット) として学生が選

択した項目の上位に「学習効果」と「利便性」が含まれていたからである。オンライン授業の悪い点 (デメリット) (図6) を見ると、最も選択されていた「先生や友人に会えない」という項目に続いて、「勉強の集中力がなくなる」「授業時間外に作業の必要な課題が多い」「発言や質問がしにくい」「学習へのモチベーションを保つことがむずかしい」といった「学習効果」に関するものが多かった。

5. まとめと今後の課題

さて、「神戸医療福祉大学の学生たちはオンライン授業についてどのように考えているのだろうか?」という問に対して、「学生たちはオンライン授業に対する印象、満足度、理解度において、肯定的に捉えている傾向にあった」と言える。そして、その理由は、コロナなどの感染症対策になっているという理由のほか、「学習効果」と「利便性」にあった。「利便性」には「通学時間の短縮」が含まれている。対面授業が実施されていなかった調査時であれば、オンライン授業は通学に要する時間はなく、生活における時間短縮に繋がっていた。しかし、対面授業も実施される中でのオンライン授業となれば、移動時間

の不都合が生じることも考えられる。

本研究調査は、コロナ禍において対面授業が実施されていない時期（一部の授業を除いて）に行った。そのため、オンライン授業のメリット／デメリットを言及するにあたり、「利便性」や「人間関係」について検討することになった。しかし、今後対面授業と併存する形でオンライン授業を活用するとなれば、「利便性」や「人間関係」の課題は検討の必要がなくなる。そうすれば、学習効果の高低にオンライン授業の焦点があたるだろう。オンライン授業のデメリットとして「集中力がなくなる」「モチベーションを保つことがむずかしい」などの項目を学生が選択していることに鑑みると、授業そのものだけでなく、集中力やモチベーションといった学習レディネスを整える工夫も必要となる。これに関しては、学生の特性を考慮に入れた、更なる調査研究の課題とする。

また、オンライン授業には様々なタイプが実施されている中、本論文では同時双方向型とオンデマンド型を一括して「オンライン授業」として扱った。オンライン授業のメリットやデメリットを論じるためには、タイプを詳細に分けて分析検討することが必要だと考える。この点も、次の課題とする。

【参考文献】

泰松 範行、石黒 順子、大村 恵子：新型コロナ（COVID-19）禍後の新大学生生活をデザインする必要性－オンライン授業に関する考察を踏まえて－、東洋学園大学紀要、29、194-209、2021
田中 美和：大学生の主体的な学習態度の検証：共栄大学国際経営学部学生を対象とした調査から利用統、共栄大学研究論集、19、113-123、2021

松島 るみ、尾崎 仁美：大学生のオンライン授業観について（1）－オンライン授業に対するポジティブな意識－、日本教育心理学会第63回総会発表論文集、212、2021a
尾崎 仁美、松島 るみ：大学生のオンライン授業観について（2）－オンライン授業に対するネガティブな意識－、日本教育心理学会第63回総会発表論文集、213、2021b
松島 るみ、尾崎 仁美：大学生が捉えるオンライン授業の学習効果－学習意欲による差異を中心に－、京都ノートルダム女子大学研究紀要、52、15-30、2022
山崎 隆之：香川大学生のオンライン授業に対する評価と今後の意向（その1）、香川大学経済論叢、93（3）、99-125、2020

-
- ¹ Between 情報サイト「設置基準改正へ① オンライン授業単位数上限等を緩和する特例制度の創設」 <http://between.shinken-ad.co.jp/univ/2022/06/secchikijun.html>（最終アクセス日：2022年6月27日）
 - ² 2022年8月に行った同様の検索では、86件の論文が発表されている。
 - ³ 2022年より「神戸医療未来大学」と名称変更されたが、本研究調査時の名称で記す。
 - ⁴ 「社会福祉学科」は2022年度より「未来社会学科」と名称変更を行ったが、本研究では学生アンケート調査時点の名称である「社会福祉学科」と記す。
 - ⁵ 実施したアンケートのコピーを次のURLにて確認できるようにしているので、アンケートの様式、詳細はこちらを参照していただきたい。 <https://forms.gle/n2iEqwWgCUJ1xDpk9>
 - ⁶ 1・2年生は、大学入学時からオンライン授業を経験しており、対面授業の経験が少

ない分、「オンライン授業に親和性がある」と考え、逆に3年生は、対面授業を経験しておりオンライン授業への抵抗があるのではないかと考えた。

- ⁷ 先行研究では、自由記述に表れた意見を分類していくプロセスであった。本研究では、その分類を参考にアンケート項目を設定し、選択回答する形をとった。